

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-51 ひとり親家庭等医療助成事業						
主管課	保険年金課	関連課 こども相談課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	ひとり親家庭の生活の安定及び自立支援による福祉の増進						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人			
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	事業の対象者数	1,761人	1,568人	1,651人			
運営資源状況	決算値(千円)	60,373千円	48,329千円	48,868千円			
	(国・県)	25,554千円	20,084千円	22,849千円			
	(負担金等)	4,915千円	368千円	85千円			
	(一般財源)	29,904千円	27,877千円	25,934千円			
	人員配置数	0.5人	0.5人	0.5人			
	人件費(千円)	4,448千円	4,706千円	5,006千円			
	協働のパートナー	無	無	無			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	64,821千円	53,035千円	53,874千円			
	市民1人当りの経費(円)	366円	300円	305円			
	対象者1人当りの経費(円)	36,809円	33,823円	32,631円			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。		
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。		
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止		
ひとり親家庭等医療助成事業	60,373千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	ひとり親家庭の医療費の自己負担分を助成する。				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)			
H22年度の課題	神奈川県が平成20年度に一部負担金を導入した。鎌倉市は、現時点では導入の予定は無いが、県内各市の状況を把握しながら対応を検討する必要がある。		
課題解決のための取組	神奈川県医療費助成改正への対応について、神奈川県や他市町村と協議をし、事務を行った。		
未解決の課題	レセプト点検等による医療費の適正化		
今後の方針	①レセプト点検等の医療費の適正化 ②神奈川県の医療費助成改正に伴う近隣市町村の対応状況を把握しながら、市としての対応を検討していく。		
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒ B	※ □事業完了 課長名 保険年金課長 相澤 昭弘

個別事業の概要

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果
ひとり親家庭等 医療助成事業	主な 個別 事業	74 臨時的任用職員賃金	51	45	■適切 □見直し余地あり
		74 医療助成事務等消耗品費	24	5	
		74 受診証印刷製本費	18	17	
		74 診療報酬明細書印刷製本費	74	0	
		74 審査支払手数料	1,350	1,230	
		74 医療費扶助	59,500	59,076	
	主な 個別 事業				□適切 □見直し余地あり
	主な 個別 事業				□適切 □見直し余地あり
	主な 個別 事業				□適切 □見直し余地あり
	主な 個別 事業				□適切 □見直し余地あり
	主な 個別 事業				□適切 □見直し余地あり